

横浜市感染症発生動向調査事業概要

平成 20 年(2008 年)

平成 22 年 3 月

横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課
横浜市健康福祉局衛生研究所

はじめに

横浜市では、1978年(昭和53年)に、本市独自の感染症サーベイランス事業を開始しました。その後、1981年(昭和56年)に全国レベルで国の事業として18疾病を対象に開始され、1987年(昭和62年)からはコンピューターオンラインシステムが導入され、27疾病に拡大された「感染症サーベイランス事業」が稼動、1998年(平成10年)には、「感染症発生動向調査事業」と改名されました。

1999年(平成11年)、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(感染症法)の施行に伴い、感染症発生動向調査が法令に位置付けられました。また、過去の反省をふまえて、感染症法には、少なくとも5年ごとに内容・類型の検討をすることが明記されました。

2003年(平成15年)の改正では、感染症の類型の見直しと重症急性呼吸器症候群(SARS)、痘そうなどが新たに追加され、動物由来感染症への対策も強化されました。

2007年(平成19年)の改正では、結核予防法との統合に伴い結核が二類感染症に追加され、細菌性赤痢、コレラ、腸チフスなどが三類感染症になるなどの感染症の類型の見直しと四類感染症に新たに疾患が追加されました。

2008年(平成20年)の改正では、麻しん及び風しんが、五類定点把握疾患から、五類全数把握疾患となりました。また、成人麻しんも、基幹定点(週報告)疾患から、五類全数把握疾患の麻しんに統合されました。

感染症発生動向調査事業は、一類から五類に定められた全疾患について、発生状況に関する情報を迅速に収集し、解析・評価を加え、その結果を速やかに関係者や市民に還元することによって、感染症対策に役立てることを目的としています。横浜市では、毎月感染症発生動向調査委員会(感染症委員会)を開催し、収集された感染症情報の分析とコメントの提供を行っています。

この度、2008年(平成20年)分の情報をまとめ、『横浜市感染症発生動向調査事業概要』を作成しました。感染症対策の参考資料として御活用いただければ幸甚に存じます。

最後に、本事業の推進にあたりご協力いただいた横浜市医師会、定点医療機関をはじめ各機関の皆様、また本事業概要の執筆にご尽力いただいた感染症委員会の先生方、横浜市健康福祉局職員の方々に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2010年3月

横浜市感染症発生動向調査委員会

委員長 北村 勝彦

目次

第1章 横浜市感染症発生動向調査事業の概要

1. 横浜市動感染症発生動向調査事業	1
(1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)について	1
(2) 感染症発生動向調査とは	1
(3) 横浜市感染症発生動向調査システムの概要	1
(4) 横浜市病原体調査	2
(5) 横浜市感染症発生動向調査システムの目的	2
(6) NESID (National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease)について	2
2. 感染症発生動向調査における情報の流れ(図)	4
3. 感染症の類型	5
4. 感染症法で規定されている感染症	7
5. 区別定点医療機関(表)	9
6. 感染症発生動向調査委員会名簿	10

第2章 一・二・三・四類感染症及び全数把握対象の五類感染症報告状況

1. 一類感染症	11
2. 二類感染症	11
3. 三類感染症	12
4. 四類感染症	14
5. 五類感染症(全数把握対象)	16
(表) 全数把握対象の感染症 患者報告数	21

第3章 五類感染症(定点把握対象)報告状況

1. インフルエンザ定点把握対象感染症	
(1) インフルエンザ	31
2. 小児科定点把握対象感染症	
(1) RS ウイルス感染症	32
(2) 咽頭結膜熱	33
(3) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34
(4) 感染性胃腸炎	35
(5) 水痘	36
(6) 手足口病	37
(7) 伝染性紅斑	38
(8) 突発性発しん	39
(9) 百日咳	40
(10) ヘルパンギーナ	41
(11) 流行性耳下腺炎	42

3. 眼科定点把握対象感染症	
(1) 急性出血性結膜炎	43
(2) 流行性角結膜炎	44
4. 性感染症定点把握対象感染症	
(1) 性器クラミジア感染症	45
(2) 性器ヘルペスウイルス感染症	45
(3) 尖圭コンジローマ	46
(4) 淋菌感染症	47
5. 基幹定点把握対象感染症	
(1) 細菌性髄膜炎	48
(2) 無菌性髄膜炎	48
(3) マイコプラズマ肺炎	48
(4) クラミジア肺炎	49
(5) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	49
(6) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	50
(7) 薬剤耐性緑膿菌感染症	50
6. 定点医療機関からの報告状況	51
(表) 定点把握対象の感染症 患者報告数	52

第4章 病原体情報

1. ウイルス検査	63
(1) 病原体定点調査成績について	63
(2) 横浜市における2007/2008シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析	67
2. 細菌検査	72

第5章 資料

1. 横浜市感染症発生動向調査事業定点一覧	75
2. 横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱	82
3. 横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱	92
4. 横浜市感染症発生動向調査委員会報告	94
5. 感染症に気をつけよう	118